

1 がんしゅ病

A 生態と防除のねらい

- 1 本病は細菌性の病害で芽、葉、果実、枝、幹など樹のほとんどの部位に発生し、傷口から感染する。
- 2 病原菌は、枝幹部の病斑から降雨によって伝播する。
- 3 ナシヒメシクイの食入によって病斑が拡大したり、カミキリムシ類の加害痕に発病するので、これらの防除も同時に行う。

B 耕種的防除法等

- 1 り病苗を持ち込まないようにする。
- 2 肥培管理に留意して樹を健全に育てる。
- 3 芽かきはなるべく小さい時に数回にわたって行う。
- 4 発病部位の削り取りを行う。再度、発病した場合も早めに削り取りを行う。
- 5 ナシヒメシクイの食入部には、ゆ合剤を塗布する。

C 薬剤防除のポイント・注意事項等

- 1 薬剤は枝幹部を中心に散布する。
- 2 銅剤を含む薬剤では、薬害を軽減するため炭酸カルシウムを加用する。

| 使用時期 | 農薬系統・一般名 | FRACコード |
|---------|-----------|---------|
| 2月中旬～下旬 | 抗生物質・銅混合剤 | 24・M1 |
| 9月上旬～中旬 | 銅剤 | M1 |

2 灰斑病

A 生態と防除のねらい

病斑上に形成された分生胞子が雨水によって飛散し、葉や果実の表面で発芽して侵入する。

B 耕種的防除法等

- 1 り病葉の処分と、通風採光を図り、樹勢強化に努める。
- 2 収穫果実を傷つけないように注意する。

C 薬剤防除のポイント・注意事項等

- 1 葉への感染を防止するために、春葉、夏葉、秋葉の各伸長期に防除を行う。
- 2 果実腐敗を防ぐために出蕾から袋掛け前にかけて、防除を行う。

| 使用時期 | 農薬系統・一般名 | FRACコード |
|-------|------------|---------|
| 開花期 | グアニジン類剤 | M7 |
| 新葉伸長期 | ベンゾイミダゾール系 | 1 |
| | チオファネート系 | 1 |
| | フルアジナム剤 | 29 |
| | グアニジン類剤 | M7 |

3 灰色かび病

A 生態と防除のねらい

- 1 露地でも見られるが、施設栽培で発生が多い。
- 2 発病は発芽期から始まり、花腐れ状となり、果実へ感染する。開花終期に過湿になると発生が多くなる。

B 耕種的防除法等

- 1 通風採光に注意し、施設栽培では排水、換気に努め、過湿にならないようにする。
- 2 果頂部の花弁を除去して幼果への感染を防止する。

C 薬剤防除のポイント・注意事項等

| 使用時期 | 農薬系統・一般名 | FRACコード |
|-----------|------------|---------|
| 開花終期～袋掛け前 | ジカルボキシイミド類 | 2 |
| | アニリノピリミジン系 | 9 |
| | グアニジン類剤 | M7 |

4 ごま色斑点病

A 生態と防除のねらい

春葉の発芽期から晩秋まで感染する。

B 耕種的防除法等

第一次伝染源は落葉病斑であるから、発芽前に園内の落葉は処分する。また、春葉でも病斑の多く発生した葉は除去し園外で処分する。

C 薬剤防除のポイント・注意事項等

| 使用時期 | 農薬系統・一般名 | FRACコード |
|-----------------------|------------|---------|
| 2月下旬～10月下旬 (新葉伸長期) | ベンゾイミダゾール系 | 1 |
| | チオファネート系 | 1 |

5 炭疽病

A 生態と防除のねらい

主として熟果に発生し、まれに新葉にも発生する。果実は腐敗し、病斑上に鮭肉色の粘塊を形成する。新葉では葉の縁に輪紋を形成し、内側に湾曲する。

B 耕種的防除法等

- 1 園を見回り、発病果をせん除し、園外で処分する。
- 2 収穫果実を傷つけないように注意する。

C 薬剤防除のポイント・注意事項等

| 使用時期 | 農薬系統・一般名 | FRACコード |
|------|----------|---------|
| 開花期 | QoI剤 | 11 |

6 ナシヒメシンクイ

A 生態と防除のねらい

- 1 がんしゅ病の発生部位内、樹皮内に幼虫が越冬する。
- 2 新梢、収穫跡、芽かき跡、せん定跡等に食入しやすいので注意する。
- 3 7月下旬、8月中旬から9月上旬に多発生する。

B 耕種的防除法等

- 1 がんしゅ病の発生部位等に生息する虫は発見しだい捕殺する。
- 2 がんしゅ病で枯死寸前の樹は早めに伐採する。
- 3 がんしゅ病の発生部位、せん定跡などから食入しやすいので、ゆ合剤を塗布し、すみやかに傷口を治癒させる。

C 薬剤防除のポイント・注意事項等

| 使用時期 | 農薬系統・一般名 | IRACコード |
|---------------------|------------|---------|
| 7月中旬～下旬 (春芽伸長初期) | ネライストキシシン系 | 14 |
| 成虫発生初期～終期 | 性フェロモン剤 | なし |

7 ハマキムシ類

A 生態と防除のねらい

- 1 ビワにはビワコガ、チャノコカクモンハマキなどのハマキムシ類が寄生する。
- 2 発生は新葉の展開初期に限られるので、早期発見、早期防除に努める。

B 耕種的防除法等

葉を巻いている幼虫を発見し、捕殺する。

C 薬剤防除のポイント・注意事項等

| 使用時期 | 農薬系統・一般名 | IRACコード |
|---------|----------|---------|
| 4月上旬～下旬 | 生物農薬 | なし |

8 ナシマルカイガラムシ（サンホーゼカイガラムシ）

A 生態と防除のねらい

1～2 齢幼虫で越冬する。

B 耕種的防除法等

粗皮を削り取り、園外に除去する。

C 薬剤防除のポイント・注意事項等

第 1 世代幼虫期、第 2 世代幼虫期を重点的に防除する。

| 使用時期 | 農薬系統・一般名 | I R A Cコード |
|-------------------------|--------------------------------|------------------|
| 6 月上旬～中旬 (第 1 世代幼虫期) | ネオニコチノイド系 昆虫成長制御剤 | 4 A 1 6 |
| 8 月上旬～中旬 (第 2 世代幼虫期) | ネオニコチノイド系 昆虫成長制御剤 マシン油乳剤 | 4 A 1 6 なし |

9 アブラムシ類（ナシミドリオオアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ、ワタアブラムシ）

A 生態と防除のねらい

- 1 ビワには数種のアブラムシ類が寄生するが、主にナシミドリオオアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ、ワタアブラムシの 3 種類である。
- 2 ナシミドリオオアブラムシは 1 1 月から 5 月に硬化した葉に、他の 2 種類は 4 月から 1 0 月にかけて未硬化葉に発生する。

C 薬剤防除のポイント・注意事項等

| 使用時期 | 農薬系統・一般名 | I R A Cコード |
|------|---------------------------------|-------------------|
| 発生初期 | カーバメート系 ピレスロイド系 ネオニコチノイド系 | 1 A 3 A 4 A |

10 クワカミキリ

A 生態と防除のねらい

- 1 成虫は6月下旬から7月にかけて脱出する。
- 2 産卵は6月下旬から9月上旬にかけて行われ、7月下旬から8月初め頃がピークである。

B 耕種的防除法等

- 1 産卵痕を見つけ、卵や幼虫を捕殺する。
- 2 排糞孔から針金を差し込み、幼虫を刺殺する。

C 薬剤防除のポイント・注意事項等

- 1 産卵の始まる6月下旬から、産卵の終わる9月上旬までに樹幹部への防除を行う。
- 2 エアゾール剤は、8月中下旬（若齢幼虫期）に食入部に噴射して使用する。

| 使用時期 | 農薬系統・一般名 | IRACコード |
|------------------|-----------|---------|
| 6月下旬～7月 | 生物農薬 | なし |
| 6月下旬～9月上旬 | ネオニコチノイド系 | 4A |
| 8月中下旬 (若齢幼虫期) | ピレスロイド系 | 3A |

11 ビワサビダニ

A 生態と防除のねらい

- 1 ビワサビダニの加害跡に灰色かび病菌を主とする糸状菌が侵入し、たてぼや症（かすり状の縦筋）となる。
- 2 開花盛期に本種の防除を行うとともに、幼果期にかけて灰色かび病の防除を行う。

B 耕種的防除法等

通風採光に注意し、ハウス栽培では排水、換気に努め過湿にならないようにする。

C 薬剤防除のポイント・注意事項等

| 使用時期 | 農薬系統・一般名 | IRACコード |
|------|----------|---------|
| 開花盛期 | 殺ダニ剤 | 21A、23 |